

37 TALK_愛づる

愛について

讚美と涙が創造の源泉 今道友信×中村桂子

- 01_ゲノムと言語
- 02_学問の始まりは好奇心か?
- 03_「愛づる」や「あわれ」という大和言葉
- 04_生きものを愛づる
- 05_愛づる時間
- 06_カイロスの時
- 07_イマジネーションする学問
- 08_命を愛する
- 09_新しい学問としての科学
- 10_科学者との対話
- こぼれ話_夜の生物学

IMAMICHI TOMONOBU >>

今道友信 (いまみち・とも のぶ)
東京大学名誉教授

1922年東京生まれ。東京大学文学部哲学科卒。東京大学教授、パリ国際哲学研究所所長、国際哲学会常任委員などを経て、現在、東京大学名誉教授、哲学美学比較研究国際センター所長、国際形而上学会会長、英知大学大学院教授。



対談を終えて 今道友信

私は哲学者であって、哲学者は対談が好きだから、話は下手なのに、大よこびで参上して「愛づる」という日本語に注目した中村さんと、熱愛する娘の物語をはじめ、学問と心情の関わりなどについて、本当に楽しい時をすごした。こわい噂もあるが、言論の自由があった。

私は、科学は仮説による学問であり、計測器などを視覚のような感覚に頼って記述するところもあり、コンピュータのような機械を信じている学問だから、哲学ほどの確かさには欠けていると思っ

ている。それといつのまにか科学は好奇心こそが研究の原動力だと思ふ人びとによって変えられるようになって来ているので、それが続く好奇心からスキャンダルだけを追う二、三流のジャーナリストと同様に堕ちたくないかと心配している。中村さんと対談してみると、「愛づる」すなわち「愛」が学問と関わり、讚美こそが学の原動力とする私の考えを受けとめて下さり、それが大変にうれしいことであった。そういう科学者なら人類のためにもなるだろう。

